

## 平成 27 年度 第 2 回協議会委員意見とその対応

## 1 【中央緑地の来園者】

意見	対応案
○中央緑地の来園者の特色を把握しているか。例えば環境学習で訪れる学校の状況など、来園者の分析をしてもらいたい。	◆指定管理者と連携して、利用内容のカテゴリーごとに来園者の特色を把握・分析する。
○散歩や憩いなどの利用と環境学習の利用は質が異なる。カテゴリーごとに分析を行い、利用者数の目標設定を行う必要がある。	
○学校の利用状況などを調べ、リピーター確保に向けて、公園利用に関する情報提供を積極的に行うなどの取組が必要である。 ○イベントに関して、人と自然の博物館ではリピーターを確保するようにしている。こうすれば、わざわざ大きなイベントを開催し、目標利用者数の帳尻合わせをしなくてもよくなる。尼崎では、リピーターとして、近くの工場に勤めている人たちに来てもらえるようすればよいのではないか。	◆中央緑地の利用方法や楽しみ方を行動計画の中で提示するとともに、効果的な広報を通じて、それらを構想エリア全体に浸透させていく。
○西宮市、芦屋市の学校にはバス代の助成をしているが、ほとんど利用されておらず、来園が少ない。もっと制度を PR する必要がある。	◆各市教育委員会のほか、学校長会に対しても、助成制度の PR を行う。

## 2 【中央緑地の利用ルール】

意見	対応案
○中央緑地の利用料金や芝生広場の使い方など、利用のルールが告知されていない。	◆利用のルールについては、県立都市公園条例やホームページ、パンフレットなどに記載しているが、よりわかりやすい広報の方法を検討する。また、利用者の要望の多様化にできる限り対応するよう検討を進める。

## 3 【中央緑地に関するアンケート調査】

意見	対応案
○満足度を把握するだけでなく、満足するにはどうしたらよいのかを検討できるアンケートにすべきである。例えば、森構想エリアに立地する企業で働く人の家族に来てもらえるようなアンケートにすべきである。	◆認知度の把握・向上を目的として、ミントクラブ会員を対象としたメールマガジンを利用し、アンケートを試行的に実施する。 (結果は、別紙参照)
○中央緑地でのイベントが体系化されていないため、利用実績に関する評価軸の設定も含め、認知度を上げることを強化していきたい。	◆企業で働く人々の意向を把握するために、指定管理者や森の会議と連携し、企業へのアンケートなどを検討し、実施する。

#### 4 【中央緑地へのアクセス】

意見	対応案
○アクセスの向上について、尼崎市バスの民営化を機に検討する必要がある。	◆アクセス向上に資する方策について、阪神バスなどの交通関係者と協議を進める。
○高速道路料金の値下げや無料化ができれば、中央緑地を訪れやすくなる。	
○太陽光発電で充電できる設備や、水素ステーションを中央緑地に設置するなど、アクセスとあわせてクリーンエネルギーの利用を検討してはどうか。	◆環境創造のまちづくりの方策として、電気自動車や燃料電池自動車など、クリーンエネルギーを利用したアクセスの促進について検討する。

#### 5 【活動主体のあり方】

意見	対応案
○活動主体が多様化すれば活性化すると思う。去年と今年の企業や団体の数の比較などを通じて、活動団体の多様性をどう確保するのか検討する必要がある。	◆森の会議や指定管理者などと連携し、新たな企業や活動団体の参画を得るとともに、それらの活動が継続するよう協力をを行う。
○市民のポテンシャルは高い。中央緑地で既存の団体をうまく活用するよう、活動の場を広げることを考えてほしい。	◆中央緑地では、港湾緑地への植樹着手を契機として、これまで以上にアマフォレストの会などの協力を得て植樹等を行い、森づくりを進展させる。

#### 6 【森と産業が共生するまちづくり】

意見	対応案
○尼崎市の産業、まちづくり部局と連携し、企業に声かけをして、まちづくりを担う組織や人材を育てることが必要である。	◆尼崎市の関係部局や商工会議所と連携して、企業への声かけも含め、森づくりやイベント等に企業の参画を得るための方策を検討し、実施する。
○労働組合から企業へ呼びかけてもらえばよいが、中央緑地からこんなことができると言ひかけるのもよい。	
○企業等の参画する事業を定例化すれば、中央緑地を訪れる人ももっと増える。商工会議所などがパンフレットをつくって、尼崎 21 世紀の森づくりや中央緑地のことを地域で説明できる場を年 1~2 回設けてはどうか。	
○運動会はよい企画である。運動会は企業でも学校でも楽しめる。ソーシャルネットワークでどんどん発信していくべきである。	◆森の会議や指定管理者と連携して、企業の参画を得た運動会を中央緑地で試行的に開催することを契機として、企業による運動会実施を働きかける。
○現在の行動計画には、研究などハイレベルのことが示されているが、企業運動会など中央緑地周辺の企業の利活用に絞った方がよいかもしれない。	
○どのような産業遺産があるのか教えてほしい。	◆産業遺産の関係資料を提示する。 (別紙参照)
○産業遺産の保管についてうまく提案できれば、尼崎 21 世紀の森づくりを PR できるのではないか。	◆産業遺産の活用を引き続き、行動計画の中に位置づける。

## 7 【行動計画の改訂】

意見	対応案
○雨水タンクをつくり、たくさんのエネルギーを使って雨水を活用することは、時代遅れになりつつある。発想を変えて、活動内容の取組状況を評価してもらいたい。	◆中央緑地全体で雨水を貯留・浸透させるなど、環境再生に貢献しているため、水資源の循環利用については、取組状況の評価を「〇」に変更する。
○現行の行動計画の内容を全部進めるのは難しいと思う。今後は、森の会議等の場を活用してアンケートでやりたい内容等を把握し、行動計画に盛り込んでいいべきではないか。	◆森の会議や指定管理者と連携して、参加者が実施したいプログラムを検討し、行動計画に盛り込む。
○行動計画に、もう少し楽しいものを盛り込むべきである。有馬富士公園では、お茶の先生、ダンサー、音楽演奏家などを呼び込んで話題になった。 ○以下の内容を検討してもらいたい。 ①お母さんが安心して訪れることができる公園 ・子育て支援(保育士の常駐など) ・オーガニックガーデン、レインガーデンづくり ②工場で働く人がリピーターとなるしくみ ・企業運動会 ・工場エリアでの演奏会 ③活動資金の確保 ・クラウドファンディング ・後援者の確保	◆次の活動項目を新たに行動計画に盛り込む。 ①を反映した活動項目:安心して子育てができる森づくり ②を反映した活動項目:働く人の交流の場の創出 ③を反映した活動項目:活動資金の確保に向けた取組